

「「しませんでした」ってどういう意味？」

〔丁寧表現の一般化〕

「しなかった」を丁寧表現にしてみると普通は「しませんでした」となります。ところが、近代文体創成期の明治初期には、「ませんでした」「ませなんだ」など様々な文末表現が存在しました。なかでも、「ませんでした」という言い方は、明治20年代前半に若松賤子(わかまつしずこ)が翻訳した『小公子』などにたくさん使われていて、よく知られた丁寧表現でした。一方、「ませんでした」という言い方は「ません」と「でした」の丁寧表現が重複しますが、現代日本語の「です・ます」体では、丁寧な要素を文末に置かなければならないという制約があるので、「ませんでした」が一般化して現代にいたったようです。このように、いま私たちが普通に使っている言語表現にも、それが確立される過程には多様な表現が存在しました。何気ない言葉にも様々な歴史が隠されているのです。

強く、優しく。

言葉や文章を学び、豊かな表現力を身につける。それが、文学部 日本語日本文化学科。



金城学院大学